2016年2月20日（土）　インド大使館　ウパニシャッド（第８回）

ブラフマンについての引用句を説明しています。前回（2015年12月19日）は、ムンダカ・ウパニシャッド及びシュヴェーターシュバタラ・ウパニシャッドからの引用句⑩～⑫について説明しました。⑫句の復習をします。

⑫　sarvendriya guṇābhāsam sarvendriya vivarjitam

　　（サルヴェンドリヤ　グナーバーサㇺ　サルヴェーンドリヤ　ヴィヴァルジタㇺ）

　　　sarvasya prabhumīśānam sarbasya śaraṇam suhṛd

　　（サルヴァスヤ　プラブミーシャーナㇺ　サルヴァスヤ　シャラナㇺ　スリッド）

「ブラフマンに感覚はありませんが、ブラフマンの力ですべての感覚は働いています（我々の感覚はブラフマンの意識を借りて働いています）。ブラフマンはすべての生き物とものと宇宙の持ち主です。ブラフマンは避難所であり友達です」という意味でした。

そして、この⑫句に関係するバガヴァッド・ギーターの第9章第18節を引用しました。（シュリーマッド・バガヴァッド・ギーター（日本ヴェーダーンタ協会／第2刷）参照）

　*Gatir bhartā prabhuḥ sākṣī nivāsaḥ śaraṅaṁ suhṛt /*

*Prabhavaḥ pralayaḥ sthānaṁ nidhānaṁ bījam avyayam //　（第９章第１８節）*

この第9章第18節の中の言葉でGatirは「すべての活動（カルマ）の結果」、bhartāは「養い」、prabhuḥは「持ち主」、sākṣīは「目撃者」、śaraṇamは「避難所」、nivāsaḥは「場所」、suhṛtは「友達」、prabhavaḥは「源」、pralayaḥ sthānaṁは「破壊」、nidhānaṁは「ものを置く場所」、bījamavyayamは「すべての創造の種」という意味です。

⑫句と同じアイデアであるもう一つの歌も挙げました。

‘ *Tvameva mātā cha pitā tvameva*

*Tvameva bandhuseha sakhā tvameva*

*Tvameva vidyā dravinam tvameva*

*Tvameva sarvam mama devadeva* ’

「おお神様、あなたは私のお母さんです。あなたは私のお父さんです。

あなたは友達です。とてもとても仲良しです。

あなたは学問です。あなたは富です。

あなたはすべてのものです。」

前回、友だちについての質問がありましたが、友達を表す言葉は４つあります。

　1)　Bandhu（バンドゥ）

　2)　Suhrid（Suhṛd）（スリッド）

　3)　Mitra（ミトラ）

　4)　Sakhā（サカー）

Bandhuは離れることができない関係にある人です。親戚がそれに当たります。Suhridはいつも意見や考えが同じ人です。Mitraはいつも活動、働き、やり方が同じ人です。Sakhāは私の命と同じ人です。そして、ブラフマンは我々のBandhuであり、Suhridであり、Mitraであり、Sakhāです。なぜならば、ブラフマンはすべての中にいるからです。以上で前回の復習とそれに関係する説明を終わります。

今日は⑬句からです。

　⑬　aṇoranīyān mahato mahīyān /

　　（アノーラニーヤーン　マㇵトー　マㇶ―ヤーン）

　　　ātmasya jantor nihito guhāyām /

　　（アートマスヤ　ジャントール　ニㇶトー　グㇵ―ヤーㇺ）

　　　tamakratuh paśyati vītaśokā /

　　（タマックラトゥㇷ　パシャティ　ヴィータショーカー）

　　　dhātuprasādāt mahimānam ātmanaḥ

　　（ダートゥプラッサーダート　マㇶマーナㇺ　アートマナㇵ）

［マハラジが最初に朗誦し、次にマハラジの朗誦の後に続いて皆で朗誦し、最後にマハラジと皆が一緒に朗誦］

この⑬句はカタ・ウパニシャッドからの引用句です。「ウパニシャッド」（日本ヴェーダーンタ協会／第2刷）のp.53、6～8行も参照して下さい。

この句の意味を説明していきます。anoは「原子」でありaṇoranīyān（アノーラニーヤーン）は「原子よりももっと小さい」という意味になります。我々のイメージで最も小さいものは原子です。しかし、聖典で原子という場合、科学でいう原子の概念とは違います。聖典でいう原子とは、髪の毛を基準とし、髪の毛を１００回分けて、分けたものをさらに１００回分けたものを言います。aṇoranīyānは最も小さいものよりも小さいという意味です。

次は、mahato mahīyān（マㇵトー　マㇶ―ヤーン）です。mahatoは「一番偉大なもの」という意味です。「一番偉大なもの」を想像するとき、空（アーカーシャ）、海、ヒマラヤを挙げることができます。海は海岸から見てもその大きさはわかりません。海岸に立つと海と陸地の両方が見えるからです。しかし、舟に乗り沖に出て１ヶ月も海ばかり（周りは水だけ）が続きますとそのときに海の大きさを実感します。同じようにヒマラヤの大きさは写真でもわかりませんしヒマラヤの近くに行ってもわかりません。ヒマラヤの奥まで登っていきますとその偉大さがわかります。空も飛行機に乗るとどこまでも空ですからその偉大さがわかります。mahato mahīyān（マㇵトー　マㇶ―ヤーン）は、そのように我々が想像することができる或いは経験がある一番偉大なものよりももっと偉大という意味です。

ここで、我々の目の力、感覚の力（power of perception）を考えてみますとその力は小さいものです。また、目の力は人同士でも動物と人間との間でも異なります。例えば、人は夜暗くなると見ることができなくなりますが猫は見えます。我々は顕微鏡（microscope）を使うことができますし、それよりも精度の高い機器を使ってさらに小さいものを見ることもできますが、それらで捉えられるものよりもaṇoranīyān（アノーラニーヤーン）はさらに小さいことを意味します。

aṇoranīyān mahato mahīyānは「最も小さいものより小さく、最も偉大なものより偉大」という意味になります。

重さ（weight）、量（quantity）、大きさ（size）、色（color）などはみな物質の性質であり有限ですがブラフマンは無限です。物質については粗大と精妙もあります。ブラフマンは精妙なものよりもさらに精妙です。

次はātmasya jantor nihito guhāyāmです。

ブラフマンはすべての生き物の中に入っています。すべての生き物の中に「洞穴」（guhāyām）がありその洞穴の中にアートマンが存在しています。ここで、アートマンとブラフマンの関係を考えてください。純粋な意識は、個人的なレベルでアートマンであり、偉大なレベルでブラフマンです。前に説明したMahā – vākya（偉大な言葉）に、「Aham Brahmāsmi」（私はそれ（ブラフマン）です）、「Tattwa masi」（あなたはそれ（ブラフマン）です）がありました。ブラフマンはアートマンと本性が同じ（「純粋な意識」）です。ブラフマンは人の中にアートマンの形で存在しています。

アートマンが人の中のどこに住んでいるかと言えば、その場所は人の中の「洞穴」です。この洞穴はサンスクリット語で「フリダーヤ」（Hridaya）、英語で「ハート」（heart）のことです。この言葉は肉体的な意味とともに、霊的と心的な意味で使われています。肉体的なハートは胸の左側にあり、霊的なハートと心的なハートは「胸の真中」にあります。心的なハートを日本語で表すなら、「考える心」、「感じる心」と言うほうがわかりやすいかもしれないです。「考える心」はマインド（mind）、「感じる心」はハート（heart）、フィーリング（feeling）です。

「感じる心」はヒンドゥー教の聖典の考えによれば「胸の真中」にあります。例えば皆さんが突然悲しみのニュースを聞きました。そのとき悲しみのフィーリングがあるのは胸の真中ではないですか。苦しみ、悲しみのときだけではなく怖いと感じるのも胸の真中です。蓮の花に自分の決めた神様が座っていることを霊的に想像する場所も胸の真中です。そこにはクンダリニーのチャクラの場所もあります。

jantor（ジャントール）は本来、動物を意味する言葉ですが、ここでは「すべての生き物」を意味します。生き物とものとは何が違いますか。生き物は感じることができ、意思があり、想像があり、感情がありますが、物質にはそれらがありません。

我々の「意識」は身体のどの部分にでも遍在しています。例えば、指が痛みを感じるのは指に意識があるからです。では、意識の瞑想で「胸の真中」に意識を想像するのはなぜでしょうか。スワーミー・ヴィヴェーカーナンダは「指でも瞑想できます」と言っていますが、それは霊的に高いレベルにある人の場合です。霊的に高いレベルにあれば、身体のどの部分に対しても瞑想することができます。

しかし、最初からそのような瞑想は難しいです。「胸の真中」に意識を想像するのは瞑想しやすくするためです。「胸の真中に洞穴があってその洞穴にアートマンが住んでいる」ことをイメージします。アートマンは胸の真中だけでなく身体のどこにでも遍在していますが、胸の真中の洞穴にアートマンがいることを想像するのが容易です。

「洞穴」は外から見えませんし隠れていて暗いというイメージがあります。しかし、外からは見えませんし暗いですが中には場所があります。それは中に入ればわかります。我々の心の中も見えないですから洞穴と同じイメージですね。胸の真中に洞穴をイメージするのはそういう理由からです。そしてそこにアートマンは住んでいます。そのイメージを使うことが瞑想のための想像を容易にします。

ātmasya jantor nihito guhāyāmは、「ブラフマンはすべての生き物の胸の真中の洞穴にアートマンの形で存在しています」という意味になります。

次はtamakratuh paśyati vītaśokā です。

我々の中にアートマンがありますがそれが見えないのはなぜでしょう。牛乳の中にバターがありますが牛乳のままではバターが見えないということと同じです。バターを作るにはプロセスが必要です。誰でもそのプロセスを使えばバターを見ることができます。

同じように、アートマンを見るための方法があります。その方法は、例えば、心をきれいにする、瞑想するというやり方です。その方法によればアートマンを見ることができます。このことは、悟った人がそれを聖典に書いていることによって証明されています。

tam akratuhは「ブラフマンを見ることができるのは欲望のない人」という意味です。kratuhは欲望（desire）を意味します。akratuhは否定形で「欲望がない」という意味です。

我々の心の中にはいつもSankalpa（サンカルパ）とVikalpa（ヴィカルパ）という考えがあります。Sankalpa（サンカルパ）は「これ（this）をします」であり、Vikalpa（ヴィカルパ）は「これをしません、別のこと（that）をします」という考えです。心の中にはいつもこのように「あれこれ」の考えがたくさん出ています。例えば、何処へ行きます、何時に行きます、何をします、そうします、そうしません、どのようにしますなど、予定についてのたくさんの考えが心の中に出ています。

それを分析しますとポジティブ（positive）とネガティブ（negative）の考えがあります。ポジティブは、これを欲しい、この経験をしたい、その人を愛したいなどの考えであり、ネガティブは、これを欲しくない、この経験をしたくない、その人を愛したくない、避けたいなどの考えです。好きな人、嫌いな人、食べたいもの、食べたくないものがありますね。その関係から心の中にたくさんの考えが出ています。

考えは心の中で絶え間なく泡立っています（continuously bubbling）。心の中を観察しますとバブルのようです。しかし、時々止まって考えてみてください、内省してみてください。その考えは必要ですか。例えば、いったん予定を決めますが心の中でその予定が何回も繰り返されます。例えば、インド大使館に行きます、行きます、行きます・・・、電車、電車、電車・・・、本当は要らないですね。我々の心の中に要らない考えがたくさんあります。

決めたことを心の中で繰り返すだけでなく、いったん決めたことと別のことも考えています。「あれこれ」と考えることによって心の力が無駄になっています。そしてそれは心の鎖になり、心の自由がなくなっています。また、そのようにすることで我々の欲望も強くなっています。

予定について考えるときその対象はみな一時的なものです。一時的なものばかり考えていると、それが心の特徴になってしまい、永遠なものに対する考えをしなくなります。一時的なものは始まりがあって終わりがあります、変化しています、衰えています。心がいつもそのことを考えている結果、心には無知、悲しみ、苦しみ、失望が出ています。

我々はそういう状態にあります。我々の心の中にはいつも欲望があります。しかし、良い願いもありますからそのことをもっと考えてください。さて、欲望の結果、永遠なものへの集中がなくなっています。一時的なもののことをいつも考え続けていますと（心の中で考えが絶え間なく泡立っていますと）、その結果、永遠なもののことを考えなくなります。「どうしてあなたは一時的なことを考えているのですか。それを考えないでどうして神様のことを考え、神様の御名、マントラを唱えていないのですか」という言葉があります。

我々は欲望、仕事、予定のことを考えますから時間も力もあります。けれども、心は永遠のことを考えていません。もし、ブラフマンのことアートマンのことを理解したいのならば、それを反対にしないといけないです。一時的なことは、必要なものについてだけ、そのときだけ考えて、他のときは永遠のことを考えてください。

スワーミー・ブラフマーナンダジのとても大事な話があります。「我々は心の一部分だけで、例えば、２０％だけでたくさん仕事ができます。残りの８０％で神様のこと、永遠のことを考えてください」という話です。心が集中して仕事をすると短時間で完璧に仕事をすることができますし、心の力は無駄になりません。そして残った力と時間で永遠のことを考えることができます。

心のコントロール、考えのコントロールをしないと、「akratuh（欲望のない）」の状態は出ません。コントロールの方法には、自己分析、内省、気づき、瞑想などがあります。仕事のときに内省しますと、心は仕事と無関係なことをずっと考えていることがわかります。その仕事のことについてだけ集中して考えることが必要です。仕事の種類によってはそれほど集中を必要としない仕事がありますがそのときは永遠のことを考えてください。

例えば、お風呂に入るときに自分の心を観察してください。お風呂に入るにはそれほど集中を必要としないですからそうしてください。お風呂に入ると関係ないことをいろいろ考えていますがそのときに永遠のこと、真理のことを考えてください。そのときにそうしないと永遠のことを考える時間が減ります。そして、いろいろ考えるのは心の無駄使いになります。

心が好き勝手に（私の好きではなく心の好きで）いろいろ想像します（wild thinking）と心のコントロールはさらに難しくなります。それだけでなく心の力が無駄になっています。そうしないで永遠のことを考えてください。もっともっと永遠のこと、真理のことを考えますと神聖になります。

自分の心が何を考えているかの気づきが必要です。自分の心を観察してみてください。それには、自分と心を分けてください。分けないと心の観察はできません。そのように分けて観察しますと無駄な考えがたくさんあることに自分で驚きます。心の力がどれだけ無駄になっているかがわかります。そこまで内省し観察してコントロールしないと「akratuh（欲望のない）」状態は出ません。朝や夜に少し瞑想するだけでは心のコントロールは難しいです。

次はvītaśokā（ヴィータショーカー）です。śokā（ショーカー）は「苦しみ、悲しみ、恐れ、心配」を表し、vītaśokā（ヴィータショーカー）は「苦しみ、悲しみ、恐れ、心配が何もない」ことを意味します。我々は生きていますから苦しみ、悲しみの状態が出ていますが、苦しみ、悲しみ、心配がない状態はどのようにすればできるでしょうか。例えば、病気があってもそれは「私」の病気ではなく「身体」の病気ですというように識別して「傍観者」の状態に入りますとそれができます。「傍観者」の状態に入らないと自分のアートマンを見ることはできません。しかし、突然その状態に入ることはできませんから識別の実践が必要です。

もう一つはdhātuprasādāt（ダートゥプラッサーダート）です。心をコントロールすることができ感覚をコントロールすることができると心が静かになります。それがdhātuprasādāt（ダートゥプラッサーダート）です。心と感覚をコントロールして「心が静か」になった人は、我々の心の洞穴の中に存在しているアートマンを見ることができます。

アートマンは自分の中にありますけれど普通の道具で見ることはできないですね。どのようにすれば見ることができるのでしょうか。心が「欲望のない」状態、「苦しみ・悲しみのない」状態、「静かで平安」の状態に入りますと自分の心の中にアートマンを見ることができます。

スワーミー・ヴィヴェーカーナンダのお話にそれを例示するものがあります。「ポットの水の底に金の飾りがありますが、ポットの水（金の飾りの上にある水）が汚れていたり、水がいつも動いていると底にある金の飾りを見ることはできません」それと同じイメージで、もし心が汚かったり心がいつも動いていたら心の中にアートマンを見ることはできません。

次にmahimānam（マㇶマーナㇺ）で「アートマンの栄光」という意味です。mahimā（マㇶマー）は「栄光」（glory）です。「アートマンの栄光」とは何でしょうか。例えば、アートマンは無限であり、アートマンは永遠であり、アートマンはサット（絶対の存在）であり、アートマンはチット（絶対の知識）であり、アートマンはアーナンダ（絶対の至福）であり、アートマンは自由です。それらがアートマンの栄光です。「アートマンの栄光」は理解することができますし、経験することができます。

自分の心の中の洞穴の中に自分のアートマンがありますが、そのアートマンとは「サッチダーナンダ（サット・チット・アーナンダ）」です。そのアートマンは自由です。そのアートマンは至福です。それを見ることができます。

ここまで説明してきた⑬句のアイデアは次の通りです。

「ブラフマンの本性は最も小さいものより小さく最も偉大なものより偉大でありしかもとても精妙です。ブラフマンの本性はアートマンの本性と同じです。ブラフマンはすべての生き物の胸の真中の洞穴にアートマンの形で存在しています。心が欲望のない状態、苦しみ・悲しみのない状態、静かで平安の状態に入りますと自分の心の中にアートマンを見ることができアートマンを理解することができます。そうしますとアートマンの栄光もわかります」

この⑬句は「ウパニシャッド」（日本ヴェーダーンタ協会／第2刷）のp.53、6～8行にも翻訳（下記）がありますので参照してください。

　「*極小のものよりも小さく、極大のものよりも大きいこのアートマンは、すべてのものの心臓の中に、永遠に住む。人が欲望から自由になり、彼の思考器官と感覚器官とが浄化されたとき、彼はアートマンの栄光を見て、悲しみを捨てる。*」

次は⑭句です。この⑭句はチャーンドーギヤ・ウパニシャッド第３章第１４節２（３・１４〔２〕）の引用です。

　⑭　manomayaḥ prāṇaśarīro bhārūpaḥ satyasankalpa

　　（マノーマヤㇵ　プラーナシャリーロー　バールーパㇵ　サッティヤサンカルパ）

　　　ākāśātmā sarvakarma sarvakāmaḥ sarvagandhaḥ

　　（アーカーシャートマー　サルヴァカルマ　サルヴァカーマㇵ　サルヴァガンダㇵ）

　　　sarvarasaḥ sarvamidam abhyāttaḥ (avākyanādaraḥ)

　　（サルヴァラサㇵ　サルヴァミダㇺ　アッビャーッタㇵ（アヴァーッキャナーダラㇵ）

［マハラジが最初に朗誦し、次にマハラジの朗誦の後に続いて皆で朗誦し、最後にマハラジと皆が一緒に朗誦］

この句については、チャーンドーギヤ・ウパニシャッドの訳本も出ていますのでそれもチェックしてみてください。

句の意味を説明していきます。manomayaḥ（マノーマヤㇵ）は「心のやり方」という意味です。ブラフマンには心があります。すべての人の心はブラフマンの心から出ています。ブラフマンはmanomayaḥ（マノーマヤㇵ）です。

ブラフマンには二つの姿があり、一つの姿は「ニルグーナ・ブラフマン」（Nirguna Brahman）です。それは性質も形もありません。一番高いブラフマンのアイデアです。性質がないので心は関係しません。ブラフマンの別の姿は「サグーナ・ブラフマン」（Saguna Brahman）です。形はありませんが性質があります。そのサグーナ・ブラフマンからこの宇宙を創っています。創造には心がありますから宇宙の創造のときにブラフマンの心があります。

prāṇaśarīro（プラーナシャリーロー）は、例えば、ブラフマンの「精妙な体」です。「精妙な体」とは、前後関係で、知識とカルマ（働き）を意味します。bhārūpaḥ（バールーパㇵ）は「明るい」という意味です。ブラフマンが「明るい」という意味は、ブラフマンの意識についてそのイメージが明るいということです。

satyasankalpa（サッティヤサンカルパ）のsatya（サッティヤ）は「正しい」、「真理」という意味です。sankalpa（サンカルパ）は、「願い」、「意思」という意味です。普通の人のsankalpaとブラフマンのsankalpaとの違いは何でしょうか。我々にはいろいろな願いがあります。願いがありますけれどもそれを満足させることができないことが結構あります。ブラフマンは願いますと絶対にそれを満足させることができます。普通の人とブラフマンとではそれが違います。

聖者にもsatyasankalpa（サッティヤサンカルパ）という言葉を使います。聖者に或る願いがありますと必ずその願いを満足させることができます。例えば、イエスが病気の人を治してくださいと願いますと、その考えだけで病気の人が治りました。別の治療は何もしていません。考えだけで絶対に治しました。それが一例です。

他の例をお話します。スワーミー・ヴィヴェーカーナンダの直弟子である在家の信者Nāg Mahāshaya（ナーグ・マハーシャヤ）という方がいました。その方の霊的なレベルはとても高く、出家の直弟子はみなナーグ・マハーシャヤを尊敬していました。或るとき、ナーグ・マハーシャヤがスワーミー・ヴィヴェーカーナンダに挨拶のためにやって来ました。そのときスワーミー・ヴィヴェーカーナンダは言いました「ナーグ・マハーシャヤ、我々の心の中にはいろいろな考えや願いがありますが、それができるかできないかはわかりません。しかし、あなたの考えや願いは正しい（satyasankalpa）ですから必ずそれを満足させることができます」悟った人にもsatyasankalpa（サッティヤサンカルパ）が当てはまるという例です。

悟った人は自然をコントロールできます。それくらい力があります。サマーディの一つにニルヴィカルパ・サマーディ（Nirvikalpa Samadhi）がありますが、ニルヴィカルパ・サマーディの後には自然をコントロールする力ができています。その力がありますと自然も従います。

聖書（バイブル）の中には次のことが書かれています。或るときイエスの信者たちが一緒に舟に乗っていました。そのとき大きな風が出てきました。舟が沈むのではないかとみな怖くなりましたが、イエスは寝ていました。舟が沈むかもしれないとみながイエスを起こすとイエスはこう言いました、「あなたたちは信仰が全然ないみたいです」と。そしてイエスは命令しました、「風よ、静かになってください」すると本当に静かになりました。自然のコントロールの例です。

自然は悟った人の命令に従います。satyasankalpa（サッティヤサンカルパ）の意味はそれです。普通の人にはできません。普通の人が建物を作ろうと思えば、その願いにはお金が必要ですし、行政の決めた条件をパスしないといけませんし、大工さんの手配もあります。しかし、ブラフマンはこの宇宙を創りますと考えてその考えだけで宇宙が出ました。ブラフマンのsatyasankalpa（サッティヤサンカルパ）の意味はそれです。考えだけでできます。

ākāśātmā（アーカーシャートマー）は「ブラフマンであるアートマンは空（アーカーシャ）のようである」という意味です。「アーカーシャ」の特徴は、「精妙」、「無限」、「遍在」でありブラフマンはそうです。

sarvakarma（サルヴァカルマ）は「すべてのカルマはブラフマンがしています」という意味です。ブラフマンの「カルマ」とは宇宙の創造、維持、破壊です。ブラフマンは宇宙を創造し、維持し、破壊します。それはマザー・カーリーと同じアイデアです。マザー・カーリーは一つの像ですが、そのイメージは宇宙の創造、維持、破壊です。

それについてシュリー・ラーマクリシュナの有名なビジョンがあります。シュリー・ラーマクリシュナはドッキネッショルで特別なビジョン（下記）をご覧になりました。

　「ガンジス河から或るときとても美しい女性が現れました。現れて少し後にその人は妊娠しました。そして子供が生まれました。子供が少し大きくなったとき、その人はその子供を食べました。」

これはとても残酷に聞こえますがとてもシンボリック（象徴的）です。このシュリー・ラーマクリシュナのビジョンにはとても深い意味があります。マザー・カーリーがどのようにこの宇宙を創造し、維持し、破壊しているかがシュリー・ラーマクリシュナのこのビジョンに現れています。

お母さんが自分の子供を食べるというのは残酷なイメージです。しかし、その「食べる」ということが意味していることは何でしょうか。創ったものは現れて粗大なものになっていますが、粗大なものはまた精妙な状態に戻ります。そのことを考えてください。本当は食べていないですし、本当は破壊していません。自分の中からものが現れて、それをまた自分の中に引き戻しています。そのイメージを考えてください。

ブラフマンはこの宇宙を自分の中から出してそれをまた自分の中に引き戻します。そのイメージならば残酷ではないでしょう。シンボリック（象徴的）と言ったのはそういう意味です。真理を勉強しますとそれが実在（真理）であることがわかります。シュリー・ラーマクリシュナのビジョンが実在の象徴的な例であることを考えてください。

sarvakarma（サルヴァカルマ）について説明していますが、ブラフマンは創造、維持、破壊のすべてをしています。しかし、維持をしているとき神様は寝ていますか。いいえ、起きて面倒をみています。バガヴァッド・ギーターの第３章第２２～２４節を見てください。

　「*プリター妃の息子（アルジュナ）よ！私＊には、三界においてしなければならぬ仕事など何も無い。だが何の不足もなく、何も得る必要がないのに、それでもなお私＊は働いている。（第３章第２２節）　＊ 至高者、最高人格神*

*何故なら、もしも私が真剣に働かなかったら、人類も私に見習って、誰も働かなくなってしまうであろうからだ。プリター妃の息子（アルジュナ）よ！（同第２３節）*

*私が働くことを止めたなら、三界はやがて消滅するだろうし、望ましくない不純な人口を増やし、人々を滅ぼす張本人となってしまうこととなる。（同第２４節）」*

ブラフマンについて同じイメージを考えてください。ブラフマンは働く義務は何もない　ですけれども働いています。宇宙を創造した後にずっと見ています。創造したものが維持されているかをチェックしています。

次はsarvakāmaḥ（サルヴァカーマㇵ）です。「ブラフマンにすべての願いがある」という意味です。その願いの中に汚い願いは何もないです。sarvagandhaḥ（サルヴァガンダㇵ）は、「ブラフマンにすべての匂いがある」という意味です。その匂いには悪臭（bad smell）は何もありません。

sarvarasaḥ（サルヴァラサㇵ）は「ブラフマンはすべてのもののエッセンスである」という意味です。sarvamidam abhyāttaḥ（サルヴァミダㇺ　アッビャーッタㇵ）は「ブラフマンはすべてのものに遍在している」という意味です。

avākyan（アヴァーッキャン）は「ブラフマンは話していない」という意味です。「話していない」とは何を意味しているのでしょう。ブラフマンは「純粋な意識」ですから器官はありません。器官がないので話していないということです。ブラフマンは話していないだけでなく、見ることも、カルマもしていません。

個人的なレベルで考えます。自分を身体と同一視しますと、つまり身体の意識がありますと、私は見ています、寝ています、食べています、働いていますということになります。しかし、サマーディのときは、自分を身体と同一視しないでアートマンと同一視しています。そのとき、その人に器官はありますが話していません、見ていません、働いていません。

サマーディのときは「純粋な意識」の状態に入りましたから、その状態で感覚の働きはありません。感覚意識があれば感覚は働きますが、「純粋な意識」の状態のとき感覚意識はありませんから感覚は働きません。サマーディに入りますと何もできません。その人は生きていますし感覚はありますがそれは働いていません。その意味でブラフマンは何もしていません。そのときのブラフマンはニルグーナ・ブラフマンのイメージです。

ところで、おもしろいのは感覚がなくても見ることができ、聞くこともできるということです。悟った人はサマーディに入っていろいろ知ることもできます。シュリー・ラーマクリシュナは、「私はサマーディに入って皆さんの状態が何かを理解しています」と仰っています。では、どうしてサマーディに入って感覚がなくてもものごとを見たり理解したりすることができるのでしょうか。

なぜなら、サマーディに入りますと全知、全能、遍在であるアートマンと一つになるので、すべてのものを理解することができるからです。普通の人は理解のために勉強しないといけないし見ないといけないです。知性、心、感覚を使って知ります。しかし、悟った人は全知になりました。全知になりましたから理解するために、普通の知性、普通の感覚、普通の心を使う必要はありません。別の方法を必要としないですべてのことを知っています。

ブラフマンは「純粋な意識」ですから何もありませんが全部知っています。悟った人は、アートマンが遍在でどこにでもありますからどこにあるものでも理解することができます。そのことを考えれば、ブラフマンは遍在ですから全知です。

我々はどこに何があるかを理解するにはそこに行かないといけないです。テレビで見ることができるのはテレビに映された場所だけです。他の場所を見ることはできません。道具を使って見ることができるのは特定の場所だけです。しかし悟った人はそのアートマンはどこにでもいますから（遍在）、全部の場所のことを理解できています（全知）。サマーディのときだけでなく普通の状態に戻っても全知の状態が可能です。

最後にシュリー・ラーマクリシュナの興味深い例をお話します。こちらから見えない場所に何があるかを知るにはその場所に行かないといけないですね。シュリー・ラーマクリシュナはご病気の療養でコシポルのガーデンハウスにいらっしゃるとき、ご病気のために動くこともできませんでした。歩くこともできませんでした。そのときホーリー・マザーはシュリー・ラーマクリシュナのお世話のために同じ場所に住んでいました。直弟子もお世話のために一緒に住んでいました。

或るとき、ホーリー・マザーは、シュリー・ラーマクリシュナが走って外に出るところをご覧になりました。師は自分で動くこともできませんでしたから、ホーリー・マザーはショックを受けました。師はすぐに戻って寝ていました。ホーリー・マザーはシュリー・ラーマクリシュナに問いました、「あなたが走って出るのを見ましたがどこへ行ったのですか」と。

若い弟子たちは、デーツパームツリー（ナツメヤシ）から甘い樹液を取るためにポットを木に結び付けていました。ポットには樹液が溜まります。そのまま飲むこともできますし煮詰めて使うこともできます。とても甘いものです。夜その樹液を飲むために弟子たちがポットの場所に行きます。しかし、その木の下には攻撃性のある毒ヘビが潜んでいることを弟子たちは知りませんでした。そこへ行けばヘビに噛まれる可能性がありました。

シュリー・ラーマクリシュナはそれを案じられ、木のところへ行かれてそのヘビに「早くこの場所から退いて他へ行ってください」と仰いました。シュリー・ラーマクリシュナは直接その場所に行って知られたのではなくお休みになられていてそのヘビのことがわかりました。これが全知の例です。今もその木はコシポルのガーデンハウスに保存されています。